

光 (Amītabhā) と「限りな
寿 (Amītaṃyus)」と「二つ
の意味があります。

このうち「限らない光」とは、
煩惱という厚い雲に覆われて
ても、それによって遮られる
ことなく、どこでも照らすとい
「はたらき」を表し、「限りな
寿」とは、「いついかなると
でも、絶えることなくはたら
ている」ということを表して
います。そして、「仏(陀)」と
う語には、「せとりを開いて
る方 (Buddha)」という意味
あり、「すべてのものに、さ
りを開かせよ」とはたらいて
る方」ということを表してい
す。

それでは、どうして阿弥陀仏
「このような「はたらき」を
にそなえていらっしゃるのだ
ょう。それは、私たちが、煩惱
振り回されていることに気づ
ず、多忙な生活に身を任せて、
を外へ外へと向けて生きてい
からでしょうか。まるで無邪気
遊んでいる幼い子どもその後ろ
をそっと親が見守るように、
弥陀仏は「いつでもどこでも
たらまかけていらっしゃる」
です。ですから、「つねびご
から(おしとめすの)」という
は、こころした阿弥陀仏のお姿
思い起し、感謝の気持ちを新
にするというこころなのです。

ドイツ人 建築家の お寺で リフォーム

⑥
大阪・極楽寺衆徒
ベッティナ・ラングナー寺本

ゴールデンウィークに、
横浜・光輪寺(村石恵照住
職)の妙珠・アグネス・エ
ンジェエスカさんに会いに
行きました。彼女は日本の
お寺で坊守(そして衆徒(僧
侶)となった西洋人女性の
草分け的存在です。

夕食の時、彼女は念仏し
て阿弥陀仏におまかせし、
み教えを広める努力を重ね
る日々に、どれほど心が満
たされているかを明るく話

尊敬する先輩

してくれました。
ポーランド浄土真宗サンガ
の代表者であり、医学博士で
もあるアグネスさんは22年
前、不思議なご縁で村石住職
と結婚しました。そして得度
して僧侶となり、坊守式も受
式しました。彼女は住職を補
佐し、大学教授で多忙な住職
に代わって一人で法務を担う
こともありました。

そんな彼女のお念仏に生き
る生活について書いた数々の
著書や、お寺での法要の際に
行われる日英両語の法話に惹
かれ、人々がお寺に集まるよ
うになりました。

法話の後、さまざまな国籍
の聴衆から、いろいろな質問
が投げかけられます。アグネ
スさんは、ご主人に質問を訳
してもらい、教学的見地から、
あるいは念仏を中心に据え
た、ご自身の生活や実体験か
ら、真摯にそうした質問に答
えていきました。

毎日、お寺の仕事に追われ
ながら、常に勉強を怠らず、
質問してくる人には誰でも教
えを伝えようとする彼女の姿
を見るたびに感動を覚えま
す。そんな彼女を前にするとい
ども、阿弥陀さまのお喚び声に
従い努力していくことで乗り
越えていける、と勇気がわい
てきます。



右から村石住職、アグネスさん
横浜市・光輪寺